

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	宮崎県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	日向市立富高小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	2	3	3	1	19	29
児童数	97	95	108	78	92	99	4	573	

研究の概要

1. 研究主題

研究主題	「ひびき・いのち・まなび」を育む教育の創造
副題	～少人数化を実現する指導過程と指導形態の工夫～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生～6年生・算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、また、学年の枠を広げて教科に取り組むために、各学年で特に差が出やすい単元で実施した。</li> <li>・3年生・国語 これまでの研究の成果と児童の実態から、教科の枠を広げて研究に取り組むために実施した。</li> </ul>
---

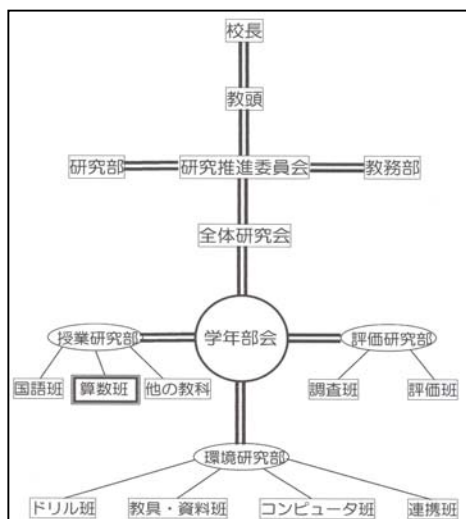
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>読・書・算などの基礎的な知識、技能の定着を図る環境づくり</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>読・書・算などの基礎的な知識、技能の定着を図る環境づくりを行い、少人数化を実現する指導過程と指導形態の工夫、基礎的・基本的な内容の定着を図る指導方法や評価の確立を行っていけば、豊かな感性(心をひびかせ)、じょうぶな体(いのちを輝かせ)、自ら学ぶ(主体的にまなぶ)資質や能力を身につけさせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>各学年における基礎的・基本的な知識や技能を明確化する。</p> <p>基礎的・基本的な知識や技能を定着させるためにドリル学習を推進する。</p> <p>ドリル学習を推進するための教材の開発を行う。</p>
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 少人数化を実現する指導過程と指導形態の工夫</p> <p>仮説 読・書・算などの基礎的な知識，技能の定着を図る環境づくりを行い，<u>少人数化を実現する指導過程と指導形態の工夫</u>，基礎的・基本的な内容の定着を図る指導方法や評価の確立を行っていけば，豊かな感性（心をひびかせ），じょうぶな体（いのちを輝かせ），自ら学ぶ（主体的にまなぶ）資質や能力を身につけさせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 指導方法・指導体制の工夫改善 学びの習慣化を図る環境づくり 学力の評価を生かした指導改善</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 少人数化を図り，基礎的・基本的な内容の定着を図る指導方法や評価の確立</p> <p>仮説 読・書・算などの基礎的な知識，技能の定着を図る環境づくりを行い，少人数化を実現する指導過程と指導形態の工夫，<u>基礎的・基本的な内容の定着を図る指導方法や評価の確立</u>を行っていけば，豊かな感性（心をひびかせ），じょうぶな体（いのちを輝かせ），自ら学ぶ（主体的にまなぶ）資質や能力を身につけさせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 指導方法・指導体制の工夫改善 学力の評価を生かした指導改善 学びの習慣化を図る環境づくり</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



各学年部を中心に実践研究を進めていった。理論研究については，本年度から，授業研究部，環境研究部，評価研究部の3つの部を設け，部を中心に研究を進めていった。特に今年度は，環境研究部の中に連携班を設け，各家庭や他の小学校や中学校との連携を深めていった。連携班を中心に，各家庭では，「親子でひとつ運動」を推進し，他校との連携では，中学校校区内学力向上協議会を開催して学力向上についての話し合いをもってきた。

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

全学年で、学習スタイル別指導や学習達成状況別指導など個に応じた指導を行うことで、児童一人一人に対しての支援がより適切にできるようになった。

国語科で学習課題別指導を行うことで、国語科におけるグループ別指導の在り方が明らかになった。

一部教科担任制（交換授業）により、教師の特性を生かす指導を行うことができた。

学級の枠を超えた指導を行うことで、支持的雰囲気を広げることができた。

個に応じた指導が行いやすい指導体制を工夫することで、基礎的・基本的内容の定着が図られつつある。

ドリルの時間を設定することで、富小ドリルの前学年分の定着率が学校平均漢字81.8点、計算92.9点など基礎的な知識、技能の定着が図られつつある。

家庭との連携（親子でひとつ運動）によって、学力向上に関する共通理解と共通実践ができた。

他校との連携（日向中校区学力向上協議会）によって、学力向上に関する共通理解と共通実践ができた。

単元末テストのやり直しの時間を年間計画の中に位置づけることができた。

家庭学習についてのアンケートの実施により、家庭学習での課題などが明らかになった。

### 2. 今後の課題

児童の学力の評価を生かした指導を改善するために、学習過程での評価とそれを生かした指導方法の工夫を図る。

個に応じた指導を行うために、少人数指導における指導過程や指導形態のより一層の工夫と改善を図ると共に、補足的な学習や発展的な学習の指導の在り方や児童が主体的に学習に取り組む指導の在り方の研究を深めていく。

繰り返し学習（ドリル学習等）や家庭学習の在り方の研究を深めていく。

家庭や地域、他校との連携を深め、地区を巻き込みながら、学力向上を図っていく。

研究成果などを公開授業や発表会、ホームページなどを通して地域や家庭に発信し、普及していく。

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力検査の実施（年1回5月）
- ・富小ドリルの前学年分の診断テスト（年2回4月・2月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上協議会授業発表会           <ul style="list-style-type: none"> <li>日時 平成14年12月2日</li> <li>場所 日向市立富高小学校</li> <li>対象 管内学校関係者，保護者，地域住民，学力向上協議会委員</li> </ul> </li>   <li>・学力向上ふれあいフロンティア公開           <ul style="list-style-type: none"> <li>日時 平成15年11月27日</li> <li>場所 日向市立富高小学校</li> <li>対象 管内学校関係者，保護者，地域住民，学力向上協議会委員</li> </ul> </li>   <li>・ホームページ作成 平成15年6月18日</li>   <li>・パンフレット（参観のしおり）作成 平成15年11月27日</li> </ul>
--

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		